

平成26年 9月25日(木) 2校時
 指導者 教諭 工藤 慶次郎
 場所 4年1組教室

1 本研究授業の提案

- (1) 話し合い活動を通して、読みを深め合う授業。
- (2) 前時までの学習内容を効果的にまとめたり振り返ったりするための工夫。

2 本研究の授業技術課題

考える視点を明確にし、発言しやすい発問の精選。

3 本研究授業で取り入れた言語活動と育てたい言語の力

根拠となる表現などを明確にしながら、自分の考えを分かりやすく発表できるようにする。

4 単元名 ごんぎつね

5 単元の目標

- ◎ 場面の移り変わりに気を付けて、人物の気持ちの変化をとらえる。

6 指導計画(本時 9/11時間)

次	時	主 な 学 習 活 動
一	①	難語句などを確認する。
	②	おおまかな内容をとらえ、初発の感想をまとめる。
	③	場面ごとの課題について話し合う。
二	④	第一場面・いたずらをするごんの気持ちを読み取る。
	⑤	第二場面・いたずらしたことを後悔するごんの気持ちを読み取る。
	⑥	第三場面・ごんの、兵十に対する償いの気持ちを読み取る。
	⑦	第四・五場面・兵十に気付いてもらえない、ごんの気持ちを読み取る。
	⑧	第六場面・引き合わないと思いながらも、くりを持っていくごんの気持ちを読み取る。
	⑨	第六場面・ごんを撃った兵十とその時のごんの気持ちを読み取る。【本時】
	⑩	ごんの立場になって表現を見直し、第六場面を書き直す。
三	⑪	ごんや兵十に伝えたいことを手紙に書く。

7 本時の展開

(1) ねらい

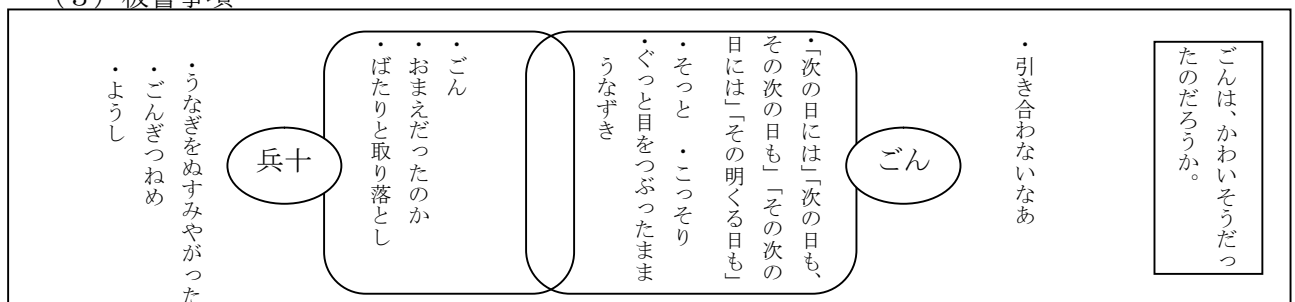
- ごんを撃った兵十と、その時のごんの気持ちを読み取ることができる。

(2) 指導過程

	学習活動	指導事項・留意点・評価
導入 (3分)	○本時の学習課題を確認する。 ごんは、かわいそうだったのだろうか。	
展開 (30分)	○話し合いをする。 【かわいそうだった】 (兵十の言動から) ・「うなぎをぬすみやがった」 ・「ごんぎつねめ」 →うなぎをとられたことを、まだ腹立たしく思われている。 ・「ようし」 →今度こそこらしめてやると思われている。 ・「足音をしのばせて」 →絶対に気付かれないようにと思ってごんに近づいている。	・これまでの場面ごとにまとめたワークシートなどを振り返らせながら考えさせる。 ・具体的に、どの表現からそう感じたのかを押さえさせる。 ・一つの表現や場面からだけではなく、複数の表現を組み合わせ、全体の流れを意識しながら読み取れるように考えさせる。

まとめ (12分)	(ごんの言動から) ・「引き合わないなあ」 →自分がしていることを気付いてもらえなかった。 ・「次の日には」「次の日も、その次の日も」「その次の日には」「その明るる日も」 →毎日つぐないをしたにもかかわらず、最後には撃たれてしまった。 ・「ばたりと、取り落としました」 →ごんが栗などを持って来ていた理由までは分からず、兵十の頭の中は混乱している。 【かわいそうだったわけではない】 (兵十の言動から) ・「ごん」 ・「おまえだったのか」 →最後には、自分に気付いてもらった。兵十にとって不思議だった栗や松茸のことがはっきり分かった。 ・「ばたりと、取り落としました」 →この瞬間兵十は、取り返しのつかないことをしてしまったと思った。これまでの栗や松茸の意味が分かった。つぐないの気持ちが通じた。 (ごんの言動から) ・「そっと物置の方へ回って」「こっそり中へ」 ・「引き合わないなあ」「その明るる日も」 →自分のつぐないに気付いてもらおうとは思っていなかった。だから撃たれたのはかわいそうだが、最後に伝わって、よかった。 ・「ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました」 →最後の力をふりしぼって、つぐないの気持ちを伝えられた。 ○ごんと兵十は、分かり合えたのかを考える。	・ 同じ表現を根拠に、別の意見は考えられないか促す。 ・ ごんの死と引き換えに、兵十がこれまでの栗の意味を知ることになった部分に目を向けさせる。特に、ごんが「うなずき」、兵十が「火なわじゅうをばたりと、取り落とし」した時の、お互いの心の動きを考えさせたい。 ・ 最後の「青いけむり～」の部分については、これまで毎日ごんがつぐないの品を届けていたことと対比しながら、一瞬の出来事であったことを感じ取らせ、兵十やごんの気持ちを考える一助とさせたい。 ・ 話合いを進める中で、初めの意見と違ってきた児童の発言も促す。 ☆ごんや兵十の気持ちを、文章中の表現を根拠に考えることができたか。 (評価:発言・ワークシート)
----------------------	--	--

(3) 板書事項



(4) 本時の評価

具体的評価規準	本文の表現を根拠にしながら、ごんや兵十の気持ちを考えている。
A と判断する姿	友達の意見や本文の表現を基に、ごんや兵十の気持ちをまとめることができる。
C への手立て	ごんの気持ちが、場面ごとに変化していくことに気付かせる。